



3月のほけんだより

平成31年 第220号



呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144

子どもに多い中耳炎

子どもは、風邪をひいたときなどに、耳の病気を併発することがよくあります。年齢が低いほど、症状があってもうまく伝えられない場合が多く、大人が気づきにくいことがあるので注意が必要です。

子どもに多い中耳炎！ こんな様子はありますか？

機嫌がずっと悪い、耳をよく触るなど、耳の病気のサインかもしれません。あれ？と思ったら耳鼻咽喉科を受診してみましょう。



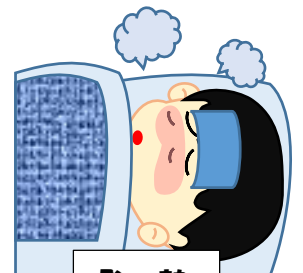
耳が痛い！



耳だれ



耳をよくいじる



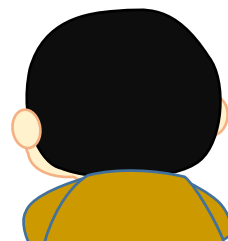
発熱



聴こえが悪い！



機嫌が悪い



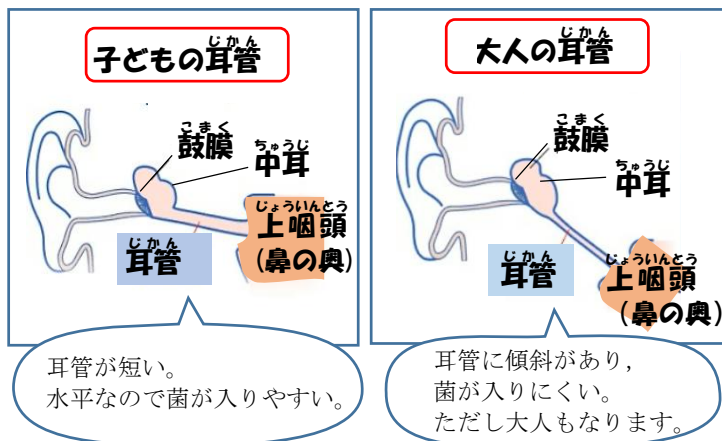
呼んでも気づかない

〇〇 ちゃ〜ん

急性中耳炎って？

《原因》

感冒に伴って、鼻の奥と耳をつなぐ耳管を伝わって、ウィルスや細菌が中耳に入ることが原因で起こります。小さな子どもは、耳管が短く、咽頭に対してほぼ水平に近い角度にあるため、菌が中耳に入りやすく、急性中耳炎になりやすいのです。



《症状》

耳の痛み・耳だれ・発熱・聴こえが悪い

《治療方法》

痛み止めや抗菌剤などのお薬を使います。膿がたくさんたまっている場合は、鼓膜を切開して膿の逃げ道を作って、痛みや熱を和らげることもあります。鼻水をこまめに吸ってあげることも大切です。

多くは1～2週間ほどで治りますが、もっと長引く場合もあります。

渗出性中耳炎って？

《原因》

耳管の機能が悪いために、中耳に液がたまります。

急性中耳炎に引き続いて起こることが多いのですが、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、アデノイドが原因になることもあります。

《症状》

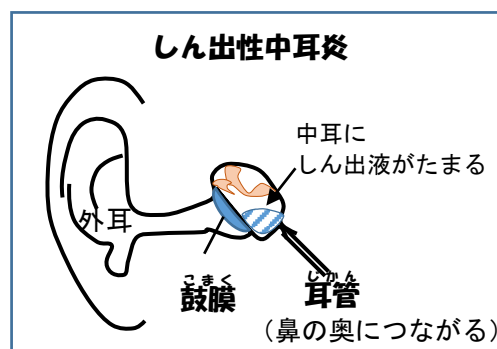
発熱や痛みはほとんどありませんが、液がたまるため、耳がつまった感じや耳鳴り、難聴を引き起こします。

子どもはなかなか自分で症状を訴えてくれませんが、注意して観察しないとわかりにくいことがあります。呼びかけても振り返らない、テレビの音が大きい、ことばの発音がおそいなどの症状があれば注意が必要です。

《治療方法》

薬による治療で治ることもありますが、治らない場合には、鼓膜を切開して中耳にたまっている液を抜きます。場合によっては、そこに小さなチューブを入れることもあります。また、鼻やのどなどの治療も必要です。

成長とともに良くなることが多いのですが、大人になっても治らない人もいますので、根気強く治療することが大切です。



ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>